

県政報告 ひでしの「実績で勝負」⁽²⁷⁾ 県独自「認知症の人と家族を支えるマーク」が誕生

公明党 鈴木ひでし

以前お知らせした、神奈川県独自の「認知症の人と家族を支えるマーク」がようやく誕生しました。きっかけは私のもとに届いた鶴見区内で活動する介護者の方々の集い「おりづる会」からの要望です。

認知症の人と家族の応援者として、全国で養成されている認知症サポーターは増加しています。にもかかわらず、「講座修了の証に配布されているブレスレット型のオレンジリングを身につけている人をあまり目に見えない。県としてもっと認識できるような新たなマークを」というものでした。

平成27年3月に会の皆様とともに県へ要望書を提出。私は、認知症への理解を一層深め、認知症サポーターの意欲的な活動につなげるため、平成28年6月の県議会第2回定例会において、県独自のマークの作成について、黒岩祐治知事



デザイン制作した学生とおりづる会の皆さん

提案をしていました。制作依頼の説明会には私も同席し、このマークの意義や思いをお伝えしました。学生たちは、県による認知症サポーター養成講座を受講し、認知症への理解を深めた上で、認知症サポーターとして、若い力を活かして、このデザイン制作に取り組んでくれました。

その結果、学生からの応募は68点に上り、認知症の方ご本人も参加した審査会で優秀作品を選考。このたび商標登録手続きを経て、県独自のマークとして誕生しました。

今後このマークは、県独自の取組みである、認知症サポーターのステップアップ研修を受講してボランティア活動を行う「オレンジパートナー」に対して、バ

ッグズ等として配布されます。さらに、県の様々な広報媒体に活用され、県内市町村等も使用できるよう啓発グッズの作成が予定されています。

グッズについても、実際に活用する介護者の方々などの意見を聞きながら、より良いものにしていきたいと思えます。

介護者の皆様の声から始まったこの取組が、認知症サポーターの活動支援につながり、認知症の人によさしい神奈川の実現に向けた一歩となるように、私も後押ししていきます。



1月31日、新マークの記者発表があり、その後、マ

優秀作品の表彰

者発表があり、その後、マ

県独自の新マーク



HP <http://www.hideshi-suzuki.com/>
第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党現職、厚生常任委員会所属

HP <http://www.hideshi-suzuki.com/>
第109代神奈川県議会副議長、県監査委員、公明党現職、厚生常任委員会所属

HP <http://www.hideshi-suzuki.com/>